

2020 年度 後期 教養教育		日英区分 : 日本語
クラウド入門		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
LB2344	1000LB1AS00075	【教養教育】学びのリテラシー（２）
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
横山 重俊 [Shigetoshi Yokoyama]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
		2

#### ■ ■ 授業の目的

クラウドサービスの利用方法を身につける。

#### ■ ■ 授業の到達目標

クラウドサービスについてその成り立ちやその動作原理について語れる。  
クラウドサービスを使ったアプリケーション構築について理解する。

#### ■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○  
B：論理的・創造的思考力 ◎  
C：コミュニケーション能力 ◎  
D：社会的倫理観・国際性 ○  
(◎：特に重視する、○：重視する、△：評価対象、－：評価対象としない)

#### ■ ■ 授業概要

我々が利用する機会が増えて来ているクラウドサービスについてその成り立ちやその動作原理について学ぶ。グループでのクラウドサービスを使ったアプリケーションの構築と発表を通じて、クラウドサービスの利用方法を身につける。コンピュータシステム、クラウド基盤の構築・運用の実務経験のある教員がそれらの経験をふまえた授業を展開する。

#### ■ ■ 授業の形式（授業方法）

演習形式

#### ■ ■ 授業スケジュール

第1週 ガイダンス 演習環境設定  
第2週 Linux  
第3週 インターネット  
第4週 Webサービス  
第5週 クラウド  
第6週 クラウドコンピューティングの今後  
第7週 コンテナ技術  
第8週 コンテナ技術演習  
第9週 コンテナ技術を利用したアプリケーション開発演習(1)  
第10週 コンテナ技術を利用したアプリケーション開発演習(2)  
第11週 コンテナ技術を利用したアプリケーション開発演習(3)  
第12週 コンテナ技術を利用したアプリケーション開発演習(4)  
第13週 コンテナ技術を利用したアプリケーション開発演習(5)  
第14週 コンテナ技術を利用したアプリケーション開発演習(6)  
第15週 発表会

#### ■ ■ 授業時間外学習情報

※ 1 単位修得するためには、授業時間外の学修も含めて 4 5 時間の学修が必要です。

本学の学内規則で定める授業時間数は次のとおりです。

【講義・演習】 1 5 ～ 3 0 時間（授業時間外 3 0 ～ 1 5 時間）  
【実験・実習・実技】 3 0 ～ 4 5 時間（授業時間外 1 5 ～ 0 時間）

講義で配布した課題の演習（小課題）

#### ■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）

課題提出、最終報告

#### ■ ■ 受講条件（履修資格）

簡単なプログラム作成能力、インターネットを利用する能力を有すること。また、コンピュータシステムについての知識があることが望ましい。

#### ■ ■ メッセージ

情報技術の流れをとらえ（過去→現在）  
最先端に触れる（現在→未来）

#### ■ ■ キーワード

クラウド、仮想化、コンテナをキーワードに実務経験のある教員が講義を実施する。

#### ■ ■ この授業の基礎となる科目

コンピュータネットワークとセキュリティ

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl2.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=437>

2020 年度 前期 教養教育		日英区分 : 日本語
<b>健康教育</b>		
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野
LB1161	1000LB1SP00024	【教養教育】スポーツ・健康
■ 担当教員（ローマ字表記）		
中 藤 勇 人 [Nakao Hayato]		
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数
		2

#### ■ 授業の目的

内体の強さを求める「ヒト」であると同時に社会を構成する「人間」あることの両面からより高い健康状態を求めることを科学する。そして、生涯の健康のための第一次予防として効果的な生涯スポーツの意味と方法を学習する。  
学習効果として、生涯スポーツの基礎づくり、健康な生活を維持・向上する実践能力、家庭・職場・地域等において健全で協力的な人間関係を積極的に導き出すことのできる豊かな人間性の育成に役立つ。さらに、健康的な生活習慣の実践が社会的責任であることの自覚を培える。

#### ■ 授業の到達目標

身近にある、健康を害する可能性のある様々な傷害や疾病の知識を学ぶと共に予防法を身につけ、また、スポーツ活動を通じてスポーツの楽しさや、体力の必要性を身につける。

#### ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○  
 B：論理的・創造的思考力 ◎  
 C：コミュニケーション能力 ◎  
 D：社会的倫理観・国際性 ○  
 （◎：特に重視する ○：重視する △：評価対象 -：評価対象としない）

#### ■ 授業概要

現代の健康づくりの基礎、特に生活習慣病の蔓延に伴ってマスコミで目にするようになった予防医学の第一次予防の視点と生涯スポーツ論をリンクさせた内容構成である。原点には昭和60～62年に実施した群馬大学特定研究による車社会の進行した群馬県民の深刻な運動不足に関する調査結果からの示唆がある。運動不足による健康被害の予防知識と自己健康体力状態の評価法の学習に重点を置き、受講生が選択するスポーツ種目ごとに運動・スポーツを本能を解放して楽しめるように実技学習プログラムを配置している。理論の学習では、日本国憲法25条で保証されている国民の健康権をWHOの健康の定義に照らして、良好に調和した健康観の確立と健康の享受ができるように、救急医学、精神医学の基礎知識の学習機会も組み込んでいる。また、指導者向け講習会講師としての実務経験を持つ教員が担当する。

#### ■ 授業の形式（授業方法）

講義室での一斉授業と選択による実技・講義を実施

#### ■ 授業スケジュール

- 第1回 全体講義1：ガイダンスと班分（教養GB棟155教室）  
 第2回 班別実習1：班別実習（実技）  
 第3回 班別実習2：班別実習（実技）  
 第4回 班別実習3：班別実習（実技）  
 第5回 全体実習1：スポーツテスト1  
 第6回 全体実習2：スポーツテスト2

- 第7回 班別実習4：班別実習（実技）  
 第8回 班別実習5：班別実習（実技）  
 第9回 班別実習6：班別実習（実技）  
 第10回 全体講義2：体力評価法  
 第11回 全体講義3：生活習慣病予防  
 第12回 全体講義4：救急処置法  
 第13回 全体講義4：精神の健康  
 第14回 全体講義5：疾病対策

- 第15回 評価：評価とまとめ

夏休みの課題：レポート

#### ■ 授業時間外学習情報

※1単位修得するためには、授業時間外の学修も含めて4.5時間の学修が必要です。  
 本学の学内規則で定める授業時間数は次のとおりです。  
 【講義・演習】1.5～3.0時間（授業時間外3.0～1.5時間）  
 【実験・実習・実技】3.0～4.5時間（授業時間外1.5～0時間）

様々な運動に積極的に関わること。

#### ■ 成績評価基準（授業評価方法）

授業中に課されたレポートおよび、授業態度による総合評価

#### ■ 受講条件（履修資格）

特になし

#### ■ メッセージ

授業の出席状況および授業中に課されたレポートの内容や授業態度より総合評価をおこなう。ただし、5回以上の欠席があった場合原則として単位認定ができないので注意すること。また、天候等で授業場所を変更する場合があるため、授業前には掲示板を確認すること。

#### ■ キーワード

健康、運動、スポーツ、体力、ライフスタイル、病気、食事、睡眠、精神保健、健康増進、ボランティア、救急処置、実務経験

#### ■ この授業の基礎となる科目

高等学校の保健体育

#### ■ 次に履修が望まれる科目

スポーツ科学

#### ■ 関連授業科目

スポーツ科学

#### ■ 教科書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

2020 年度 後期 教養教育		日英区分 : 日本語	
スポーツ科学 (ダンス)			
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野	
LB2165	1000LB1SP00010	【教養教育】スポーツ・健康	
■ 担当教員 (ローマ字表記)			
高橋 美穂子 [Takahashi Mihoko]			
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数	
		1	

#### ■ 授業の目的

ダンスにおける身体運動活動を通して、運動することの楽しさや喜びを知ることができる。  
ダンスにおける身体運動活動を通して、身体の機能を向上させる大切さを理解することができる。  
生涯を通じた運動経験、運動活動への意欲を持つことができる。

#### ■ 授業の到達目標

学生がスポーツと身体機能の関係について理解できる。  
ダンスの基本的な動き、考え方を理解、習得することができる。

#### ■ ティプロマボリシーとの関連 (評価の観点)

- A: 諸科学についての基礎的知識と理解 ○  
B: 論理的・創造的思考力 ○  
C: コミュニケーション能力 ○  
D: 社会的倫理観・国際性 ○

#### ■ 授業概要

舞踊教育の現場での実務経験のある教員が、その経験に基づいてダンスの基礎から創作法、表現法を習得する実践的な授業を行う。現代的なリズムの音楽に合わせて踊ることを体験し、また仲間と呼吸を合わせて踊ることを通じて共感力を高める授業を行う。  
また、ダンススクール指導者としての実務経験を持つ教員が担当する。

#### ■ 授業の形式 (授業方法)

実技

#### ■ 授業スケジュール

- 1 カイダンス (実務経験のある教員による授業)
- 2 ダンスの基礎的・基本的な動きの理解と経験 (実務経験のある教員による授業)
- 3 ストレッチ・ダンスのアップの経験 (実務経験のある教員による授業)
- 4 簡単な動きの習得① (実務経験のある教員による授業)
- 5 簡単な動きの習得② (実務経験のある教員による授業)
- 6 簡単な動きの習得③ (実務経験のある教員による授業)
- 7 発展した動きの習得① (実務経験のある教員による授業)
- 8 発展した動きの習得② (実務経験のある教員による授業)
- 9 発展した動きの習得③ (実務経験のある教員による授業)
- 10 動きをつなげ、流れにして踊る① (実務経験のある教員による授業)
- 11 動きをつなげ、流れにして踊る② (実務経験のある教員による授業)
- 12 動きをつなげ、流れにして踊る③ (実務経験のある教員による授業)
- 13 流れを作品にして踊る① (実務経験のある教員による授業)
- 14 流れを作品にして踊る② (実務経験のある教員による授業)
- 15 作品発表、鑑賞とまとめ (実務経験のある教員による授業)

#### ■ 授業時間外学習情報

※ 1 単位修得するためには、授業時間外の学修も含めて 4 5 時間の学修が必要です。  
本学の学内規則で定める授業時間数は次のとおりです。  
【講義・演習】 1 5 ~ 3 0 時間 (授業時間外 3 0 ~ 1 5 時間)  
【実験・実習・実技】 3 0 ~ 4 5 時間 (授業時間外 1 5 ~ 0 時間)

選択した科目について積極的に関連の文献、資格資料にあたっておく。

#### ■ 成績評価基準 (授業評価方法)

授業への積極的参加、作品創作および発表の達成度

#### ■ 受講条件 (履修資格)

#### ■ メッセージ

#### ■ キーワード

創作ダンス・身体表現・リズムダンス、実務経験

#### ■ この授業の基礎となる科目

#### ■ 次に履修が望まれる科目

健康教育

#### ■ 関連授業科目

#### ■ 教科書

#### ■ 参考書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

適宜資料を配付する

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

2020 年度 後期 教養教育		日英区分 : 日本語
知っておきたい肺とアレルギーの話		
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野
LB2210	1000LB1HS00018	【教養教育】健康科学科目群
■ 担当教員（ローマ字表記）		
久田 剛志 [Hisada Takeshi]		
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数
		2

#### ■ 授業の目的

肺は、酸素を取り込む臓器です。常に外界（周りの空気）と触れ合っているため、多くの病気がおこります。アレルギーを含めた呼吸器の疾患について、医療関係者のみならず、皆が知っておきたい肺とアレルギーの知識についてやさしく解説します。呼吸器を中心として、病気の成り立ちや予防法、治療法の基礎を理解し、今後の生活に役に立つ基本的な知識を身に付けることを目的とします。

#### ■ 授業の到達目標

教養教育の科目ですので、専門知識がなくても理解できるレベルです。

以下を到達目標とします。

基本的な呼吸の仕組み、肺の働きについて説明できる。

代表的な呼吸器疾患の成り立ちを説明できる。

呼吸器疾患やアレルギー疾患の予防法や治療法の基本について説明できる。

#### ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○  
 B：論理的・創造的思考力 ○  
 C：コミュニケーション能力 -  
 D：社会的倫理観・国際性 -

この科目を受講することによって、人体の巧妙な仕組みと各種疾患が発症するメカニズムを理解することはいろいろな学部専門教育にも通じるところがある。また、自己の健康管理にも役立つものである。

#### ■ 授業概要

呼吸機能について、また喫煙の健康への影響、呼吸器疾患とアレルギー（肺癌、結核、肺炎、睡眠時無呼吸症候群、喘息、花粉症など）をやさしく、予防法なども含めて解説します。（呼吸器疾患、アレルギー疾患、感染症に対する専門医である教員が、その実務経験を活かして授業を行います。）

#### ■ 授業の形式（授業方法）

プリントを配布し、講義形式。

#### ■ 授業スケジュール

- 第1回 肺の働き、呼吸の役割  
 第2回 タバコの影響・・・軽いタバコならいいのでしょうか？ 新型タバコは？  
 第3回 タバコ病である肺気腫（COPD）を知り、あとで後悔しないようにしましょう  
 第4回 肺がんを知り、予防に心がけましょう  
 第5回 睡眠中に息がとまっていませんか？ 睡眠時無呼吸症候群  
 第6回 結核、なぜマスクミで騒がれたのでしょうか？  
 第7回 まとめ①  
 第8回 肺炎・インフルエンザ 超高齢社会において  
 第9回 アレルギーは、どうしておこるのでしょうか？  
 第10回 喘息はなぜおこるのでしょうか？ 予防と治療は？  
 第11回 花粉症を何とかするには？  
 第12回 鳥の飼い主などを襲う息苦しい病気 - 過敏性肺炎  
 第13回 環境や職業によっておこる肺の病気？  
 第14回 食事による病気の予防！ 呼吸器疾患やアレルギーにも・・・  
 第15回 呼吸リハビリテーション  
 第16回 試験

※ 予定が変更になる場合には、随時連絡します。

#### ■ 授業時間外学習情報

※ 1単位修得するためには、授業時間外の学修も含めて45時間の学修が必要です。

本学の学内規則で定める授業時間数は次のとおりです。

【講義・演習】15～30時間（授業時間外30～15時間）

【実験・実習・実技】30～45時間（授業時間外15～0時間）

教科書は必要ない。毎回プリントを配布する。よく復習し、知識を確実なものにして欲しい。試験は記述式であり、プリント内容を理解していれば解答できる。

#### ■ 成績評価基準（授業評価方法）

試験にて評価する。成績評価は、S(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、D(59点以下)とし、S、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。ただし、Sは上位5%以内とする。

#### ■ 受講条件（履修資格）

全学部生

#### ■ メッセージ

肺の病気は、年齢を問わず発症し、様々なものがあります。病気の本質とその予防法を理解し、健康な生活を送れるように努めましょう。新しい話題も随時取り入れてやさしく解説します。

#### ■ キーワード

肺 呼吸器 喫煙 肺がん 結核 アレルギー 喘息 睡眠時無呼吸症候群  $\omega$ 3 脂肪酸 実務経験

#### ■ この授業の基礎となる科目

特になし

#### ■ 次に履修が望まれる科目

特になし

#### ■ 関連授業科目

特になし

#### ■ 教科書

#### ■ 参考書

#### ■ 教科書・参考書に関する補足情報

特になし

#### ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク



2020 年度 前期 教養教育		日英区分 :日本語
生命保険の仕組みと活用を考える		
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野
LB1279	1000LB1IS00071	【教養教育】総合科目群
■ 担当教員（ローマ字表記）		
杉山 学 [Sugiyama Manabu], 荒木 孝志 [Takashi Araki]		
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数
		2

#### ■ 授業の目的

社会保障制度の仕組みや自助努力で将来に備えることの重要性を理解し、リスクを回避・抑制する手段の一つである生命保険の仕組み・役割等について学ぶことを通じて、これからの持続可能な社会を営む一員として役に立つ知識・考え方の習得を目指す。

#### ■ 授業の到達目標

社会保障制度の概要やその主な保障内容を理解し、説明することが出来る。  
現代生活に潜むリスク、生命保険の意義・役割、基本的な仕組み等を理解し、説明することが出来る。  
大学生として、公的保障と私的保障のあるべき姿について、自分なりの考察を加えて整理し、説明することが出来る。

#### ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○  
B：論理的・創造的思考力 ○  
C：コミュニケーション能力 ○  
D：社会的倫理観・国際性 ○

#### ■ 授業概要

この授業では、まず私たちを取り巻く経済環境について概観する。  
その理解の上で立ち、少子高齢化社会の一層の進展により、表面化している社会保障制度の諸課題を背景に、公的保障と私的保障の多様なあり方や、私的保障（生命保険）の意義、自助努力の必要性や有用性について理解し、考察を深めていく。  
また、グループ単位で課題分析・解決策等を議論し、提言としてまとめあげるグループディスカッションも予定している。  
全ての講義において、大手生命保険会社の役員・管理職等を歴任し、生命保険事業全般に深く精通した幅広い知識・経験・実績を有する講師陣が担当する。  
経験談や最新の情報提供も随所に織り込み、理論と実践の両面から理解を深めていく。

#### ■ 授業の形式（授業方法）

講義と演習（グループディスカッション）。  
演習（グループディスカッション）は2回程度、少人数に分かれて与えられたテーマに対する解決策の議論等を行う。

#### ■ 授業スケジュール

- 1：オリエンテーション・生保総論
- 2：生活設計とリスク管理①
- 3：生活設計とリスク管理②
- 4：公的保障と生保（死亡・医療）
- 5：公的保障と生保（老後・介護）
- 6：生保契約の仕組み
- 7：グループディスカッション
- 8：生保商品の変遷・動向
- 9：生保に関する調査
- 10：生保会社の組織・業務
- 11：隣接業界（少額短期保険等）
- 12：震災対応
- 13：金融ADR
- 14：グループディスカッション
- 15：総括

※受講生の理解度や履修人数によっては、内容・順番を見直す場合があります。

#### ■ 授業時間外学習情報

※1単位修得するためには、授業時間外の学修も含めて45時間の学修が必要です。

本学の学内規則で定める授業時間数は次のとおりです。

- 【講義・演習】15～30時間（授業時間外30～15時間）  
【実験・実習・実技】30～45時間（授業時間外15～0時間）

授業で使用した資料に基づいて一時間程度の復習を行うことが、内容理解において望ましいと考えます。

#### ■ 成績評価基準（授業評価方法）

「授業への参加度+（受講回によって実施）小レポート等の内容」60%  
「最終試験得点」40%で評価します。

最終試験は学期末に実施します。下記の観点から評価を行います。

- ・社会保障制度の概要の理解
- ・生命保険の意義・役割・仕組み等の理解

小レポート、グループディスカッションでは、課題に対して自分なりにどのように考察し、それを説明できているかを評価します。

#### ■ 受講条件（履修資格）

#### ■ メッセージ

少子高齢化の進展を踏まえた社会保障制度の改革状況について、メディア等を通じて情報収集し、課題認識の向上を図ると、より講義が楽しく理解できるようになると考えます。その上で、生活設計・生命保険について学ぶことは、それぞれの人生について考える大変有益な機会にもなると考えます。

#### ■ キーワード

公的保障と私的保障  
公助と自助  
生活設計  
リスク管理  
実務経験

#### ■ この授業の基礎となる科目

#### ■ 次に履修が望まれる科目

#### ■ 関連授業科目

#### ■ 教科書

#### ■ 参考書

#### ■ 教科書・参考書に関する補足情報

毎回の講義時に資料を配布する。

#### ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

2020 年度 前期 共同教育学部		日英区分 : 日本語
<b>教職論</b>		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
EB2008	1015EB1AA00201	【共同教育学部】教育基礎科目
■ ■ 担当教員 (ローマ字表記)		
安藤 哲也 [Tetsuya Andoh]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	1年次～4年次	1

#### ■ ■ 授業の目的

教職入門期に、教師として必要とされる資質・能力等について理解するとともに、目指す教師像を自分なりに具体化していくことをねらいとする。

#### ■ ■ 授業の到達目標

- ・「心ある教師」に必要な資質・能力について理解するとともに、その教育態度について実感することができる。
- ・教師としての成長と振り返り(リフレクション)の関係について、体験的に理解することができる。
- ・自身の理想とする教師像を具体化することができる。

#### ■ ■ ディプロマポリシーとの関連 (評価の観点)

- A 諸科学についての基礎的知識と理解
- C コミュニケーション能力
- E 教科の専門的理解
- F 実践的な指導力
- G 教育に対する見識
- H 子どもの成長・発達に対する理解

#### ■ ■ 授業概要

本講義は、教師の日常的職務活動の具体的な場面を想定し、学級担任としての具体的な教育行為について考察・体験することを通して、教育実践者としての教師のリアリティに接近する。幼・小・中・特支学校で学級担任として勤務した経験を適宜紹介しつつ、学校種(子どもの発達)を超えた教師としての有り様と学校種(子どもの発達)に応じた教師の有り様についても考察していく。

#### ■ ■ 授業の形式 (授業方法)

講義と演習。講義では、各回に提供された話題について5、6名のグループで話し合い、自分なりの考えをもつ機会を設ける。また、本授業のまとめとして位置付ける演習では、学級開きの場面を想定し、学級担任として子どもたちに語りかける活動を行う。

#### ■ ■ 授業スケジュール

- 第1回：なぜ教師を目指すのか(本講義を貫く課題について)
- 第2回：教師とは(「心ある教師」の姿から考える)
- 第3回：教師に求められる資質と能力
- 第4回：教師の仕事と責務
- 第5回：チームでつくる学校・学級(学校内外の専門性を活用して)
- 第6回：教師としての成長を促すもの(同僚性・協働性を基盤として)
- 第7回：教師として語る(模擬授業と交流会)
- 第8回：理想とする教師像
- レポート提出

#### ■ ■ 授業時間外学習情報

※1単位修得するためには、授業時間外の学修も含めて45時間の学修が必要です。

本学の学内規則で定める授業時間数は次のとおりです。

【講義・演習】15～30時間(授業時間外30～15時間)

【実験・実習・実技】30～45時間(授業時間外15～0時間)

事後学習として、各回の小レポートとそれに付した教員のコメントをもとに授業内容を振り返り、考察を深める。また、授業内で紹介した図書や資料を読み、さらに学びを広げたり深めたりする。

#### ■ ■ 成績評価基準 (授業評価方法)

成績評価の方法：授業への積極的な参加態度(30%)、毎回実施の振り返り小レポート(30%)、課題レポート(40%)

成績評価の基準：

- ・教師に求められる資質・能力と教師としての成長を促す省察の重要性について理解している。
- ・自身の理想とする教師像を具体化している。

#### ■ ■ 受講条件 (履修資格)

#### ■ ■ メッセージ

#### ■ ■ キーワード

教師の資質・能力 省察 教師の仕事 同僚性・協働性 実務経験

#### ■ ■ この授業の基礎となる科目

#### ■ ■ 次に履修が望まれる科目

#### ■ ■ 関連授業科目

#### ■ ■ 教科書

#### ■ ■ 参考書

#### ■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

2020 年度 後期 共同教育学部		日英区分 : 日本語	
<b>幼児と環境</b>			
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野	
EB2139	1015EB1JB00103	【共同教育学部】選択科目	
■ 担当教員 (ローマ字表記)			
安藤 哲也 [Tetsuya Andoh]			
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数	
	1年次 ~ 4年次	1	

#### ■ 授業の目的

「環境を通して行う」という幼児教育の基本をふまえ、その「環境」のもつ意味と役割、具体的な内容、環境の構成について学び、保育の本質についての理解を深めることを目的とする。そのことにより、「環境」のあり方は、小学校以降の教育にも通じる基本であることを実感できる。

#### ■ 授業の到達目標

1. 幼児期の発達の特徴を踏まえ、環境を通して行う教育の意義について理解することができる。
2. 幼児にとって意味のある環境と教師の役割について理解することができる。
3. 幼児の主體的な活動を促す環境の構成や再構成について、具体的に構想することができる。

#### ■ ディプロマポリシーとの関連 (評価の観点)

- A 諸科学についての基礎的知識と理解 △  
 C コミュニケーション能力 ○  
 E 教科の専門的理解 ◎  
 F 実践的な指導力 ◎  
 G 教育に対する見識 ○  
 H 子どもの成長・発達に対する理解 ◎

#### ■ 授業概要

本授業では、幼児期の発達の特徴に基づく幼児期の教育の基本について、小学校教育との違いを検討しながら理解していく。その過程で、幼児にとっての環境の意味や環境を通して行う教育の意義を考える。また、保育実践事例を手掛かりに、幼稚園で学級担任として勤務した経験をもとに、想定しうる子どもの姿を伝えながら、環境の構成や再構成の在り方について考えていく。

#### ■ 授業の形式 (授業方法)

講義を基本とするが、各回とも授業テーマに沿った話題に基づきグループで協議を行い、自分なりの考えを広げ、深める。ビデオ視聴など、具体的な保育事例にできるだけ触れることにより、実践的に考察を深めていく。

#### ■ 授業スケジュール

- 第1回：オリエンテーション (幼児にとっての環境とは)  
 第2回：幼児期の発達の特徴  
 第3回：環境を通して行う教育  
 第4回：遊びを通しての総合的な指導と環境  
 第5回：環境としての教師の役割  
 第6回：環境の構成と保育計画の作成  
 第7回：保育実践事例を基に環境について考える1 (生活の場面)  
 第8回：保育実践事例を基に環境について考える2 (遊びの場面)  
 レポート提出

#### ■ 授業時間外学習情報

※1単位修得するためには、授業時間外の学修も含めて45時間の学修が必要です。

本学の学内規則で定める授業時間数は次のとおりです。

【講義・演習】15～30時間 (授業時間外30～15時間)

【実験・実習・実技】30～45時間 (授業時間外15～0時間)

事後学習として、各回の小レポートとそれに付した教員のコメントをもとに授業内容を振り返り、考察を深める。また、授業内で紹介した図書や資料を読み、さらに学びを広げたり深めたりする。

#### ■ 成績評価基準 (授業評価方法)

成績評価の方法：授業への積極的な参加態度(30%)、毎回実施の振り返り小レポート(30%)、課題レポート(40%)

成績評価の基準：

- ・幼児期の教育における「環境」の意味とその重要性について理解している。
- ・事例を基に環境の構成と再構成の在り方を具体的に構想している。

#### ■ 受講条件 (履修資格)

#### ■ メッセージ

#### ■ キーワード

環境を通して行う教育 幼児期にふさわしい生活 環境の構成と再構成 人的環境としての保育者 実務経験

#### ■ この授業の基礎となる科目

#### ■ 次に履修が望まれる科目

#### ■ 関連授業科目

#### ■ 教科書

教科書1	ISBN	9784577814475				
	書名	幼稚園教育要領解説				
	著者名	文部科学省 [著], 文部科学省,	出版社	フレーベル館	出版年	2018
	備考					

#### ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

2020 年度 後期 共同教育学部		日英区分 : 日本語	
<b>造形表現</b>			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
EB2142	1015EB1JB00106	【共同教育学部】選択科目	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
都司 明子 [Gunji Akiko]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数	
	1年次～4年次	1	

■ ■ 授業の目的

幼児期における造形表現の原理を理解し、実感を伴い表現の意義を説明できるようになることを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

- ・幼児期における造形表現の原理を理解し、説明することができる。
- ・幼児期における表現活動の意義を理解し、説明することができる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○  
 B：論理的・創造的思考力 ○  
 C：コミュニケーション能力 ○  
 D：社会的倫理観・国際性 ○

■ ■ 授業概要

幼小連携研究に従事した小学校教員の実務経験を有する教員が、その経験を活かして、幼児期における造形表現の原理に関する授業を行う。演習等を通して表現することの根源的な意味について共に考える。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義・演習

■ ■ 授業スケジュール

- ①オリエンテーション（保育の現場より）
- ②保育における「表現」の原理と生成過程
- ③造形表現の原理とその意義
- ④身体感覚の活性化に向けて
- ⑤造形表現を中心とした教材研究 その1
- ⑥造形表現を中心とした教材研究 その2
- ⑦表現が行き交う保育の可能性
- ⑧まとめ：ポートフォリオ作成

■ ■ 授業時間外学習情報

※1単位修得するためには、授業時間外の学修も含めて45時間の学修が必要です。

本学の学内規則で定める授業時間数は次のとおりです。

【講義・演習】15～30時間（授業時間外30～15時間）

【実験・実習・実技】30～45時間（授業時間外15～0時間）

保育現場におけるアート活動など、直接現場に触れる機会（ボランティア活動）も提供しています。実際に子どもと一緒に活動し、幼児期における造形表現の意義など、実体験を通じて考えることをお勧めします。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）

授業への積極的参加5割、その他の課題に対する取り組み5割で評価を行います。

■ ■ 受講条件（履修資格）

■ ■ メッセージ

幼児教育を知ることは、あらゆる教育の根源を学ぶこととなります。子どもの「表現」を巡り、自身の教育観を深めていきましょう。

■ ■ キーワード

幼児の発達、造形表現、領域「表現」、幼児期と児童期の接続、実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

特になし

■ ■ 次に履修が望まれる科目

幼児の指導法「表現」

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

教科書1	ISBN				
	書名	幼稚園教育要領（最新版）			
	著者名		出版社		出版年
	備考				
教科書2	ISBN				
	書名	幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）			
	著者名		出版社		出版年
	備考				
教科書3	ISBN				
	書名	事例で学ぶ 保育要領表現			
	著者名	無藤隆監修	出版社	萌文書林	出版年 2018
	備考				

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク



## 発達障害教育概論

■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
EB2122	1015EB1EG00301	【共同教育学部】特別支援教育分野
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
霜田 浩信 [Shimoda Hironobu]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	1年次～4年次	2

### ■ ■ 授業の目的

### ■ ■ 授業の到達目標

1. 発達に即した発達障害児者の特性についての理解を深める。
2. DSM5に添って、発達障害(神経発達障害)の特性理解ができる。
3. 生活障害といった概念を解して、発達障害児者の発達に即した『認知と関係の発達』を理解し、対象児および支援者への適切な支援を考えることができる。

### ■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
- B：論理的・創造的思考力 △
- C：コミュニケーション能力 ○
- D：社会的倫理観・国際性 ○
- E：教科の専門的理解 △
- F：実践的な指導力 ○
- G：教育に対する見識 ○
- H：子どもの成長・発達に対する理解 ○

### ■ ■ 授業概要

現在一般の小学校・中学校に知的に障害を伴わない高機能自閉症、アスペルガー症候群、LD、ADHDのある人が約6.3%存在するといわれている。共生社会を目指す現代の学校教育において、彼らの障害特性の理解と支援のあり方を学習することは極めて重要であると考えられる。本講義は、発達障害児者の生活とその記述、障害児者の物語を読み解くことまた、今日的に行われている支援の現状を学ぶことで、発達障害の特性理解と支援の方法について考察を深める。  
特別支援学校における実務経験のある教員が、その実務経験を活かして、発達障害児の特性と支援に関して講義する。

### ■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義・演習を組み合わせる実施

### ■ ■ 授業スケジュール

- 第1回：オリエンテーション、発達障害とは
- 第2回：生活障害という視点から見た発達障害
- 第3回：生活障害という概念の理解
- 第4回：事例的検討1：自閉スペクトラム障害への関わりを考える（グループワーク①：導入）
- 第5回：事例的検討2：自閉スペクトラム障害への関わりを考える（グループワーク②：展開）
- 第6回：事例的検討3：自閉スペクトラム障害への関わりを考える（ロールプレイング）
- 第7回：支援のあり方と個別支援計画を中心にグループワーク発表
- 第8回：これまでの発達障害特性の判断基準と神経発達障害の違い：DSM-5よりID、ASD
- 第9回：これまでの発達障害特性の判断基準と神経発達障害の違い：DSM-5よりADHD、LD
- 第10回：発達障害の特性理解
- 第11回：発達障害児者の新たな特性理解を視野に入れた支援の方向性
- 第12回：発達障害児者の認知特性と支援1：事例①（青年期）
- 第13回：発達障害児者の認知特性と支援2：事例②（成人期）
- 第14回：発達障害児者の認知特性と支援に関するディスカッション
- 第15回：授業の振り返りとまとめ

### ■ ■ 授業時間外学習情報

※1単位修得するためには、授業時間外の学修も含めて45時間の学修が必要です。

本学の学内規則で定める授業時間数は次のとおりです。

【講義・演習】15～30時間（授業時間外30～15時間）

【実験・実習・実技】30～45時間（授業時間外15～0時間）

授業時間中に提示した学習内容について復習をすること。

### ■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）

学習課題(30%)、レポート課題(40%)、授業への参加度（発表資料、発表、討議など）30%などから総合的に評価する。

### ■ ■ 受講条件（履修資格）

### ■ ■ メッセージ

### ■ ■ キーワード

発達障害 支援方法 実務経験のある教員による授業

### ■ ■ この授業の基礎となる科目

### ■ ■ 次に履修が望まれる科目

### ■ ■ 関連授業科目

### ■ ■ 教科書

### ■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク